

限られた予算で1台でも多く 本当に使えるICT環境の実現にむけて

ー 袋井市教育委員会

目的

- ☐ 限られた予算で、充実したICT環境を導入したい
- ☐ PC教室から普通教室での活用にシフト、稼働率を向上したい
- ☐ 教室だけでなく、校外でも活用したい

アプローチ

- ☒ LTEタブレットを選択することで、大量導入とコスト削減を両立
- ☒ 導入計画から活用支援まで、学校に寄り添うトータルサポートを実施
- ☒ LTEタブレットで、いつでもどこでも学習できる環境を構築

本当に使えるICT環境をめざして、 “1台でも多く”にこだわったタブレット導入

静岡県袋井市は、2019年10月に小中学校合わせて1280台のLTEタブレットを導入しました。普通教室で使えるICT環境の実現と、いずれ向かうべき「一人1台」を視野にいて、1台でも多く端末を導入できるようにとドコモを選択。子どもたちの学びを広げるツールとして、現場ではさまざまな試みがはじまっています。

ドコモに決めたのは、一台でも多くのタブレット導入を実現してくれたから



袋井市の教育長 鈴木典夫氏は「一人1台といわれはじめ、これからはパソコン教室でコンピュータを使うのではなく、普通教室で使えるICT環境が必要だろうとタブレットに切り替えました」と語っています。

とはいえ、Wi-Fiの整備率が低かった袋井市。小中学校にWi-Fi環境を整備するには費用も時間もかかることから、**初期投資が削減できるLTEタブレットを選択**。鈴木教育長は「とにかく、一人1台に向けて、1台でも多くタブレットを導入したくて、**限られた予算内で、台数がそろえられる企業を選びたい**と考えていました」とドコモを選んだ理由について話してくれました。

加えて、導入の検討段階から、**教育コンテンツやセキュリティ面の提案など、タブレット活用全般に関するサポートがあったことも決め手だったようです**。「ドコモはすでに他校や他市での実績もあり、学校の中に入って、**我々と一緒にタブレット運用を考え、サポートしていただけたこともよかったです**」と鈴木氏。最終的に袋井市は、小中学校合わせて1280台のLTEタブレットを導入し、2019年10月から本格始動しました。



鈴木典夫 教育長

袋井市教育委員会

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

URL : https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/kurashi/kosodate_kyoiku/kyoikuin/index.html

静岡県袋井市は、「東海道五十三次」のど真ん中に位置する宿場町として、古くからヒト、モノの交流で栄えた街です。人口約88,000人で（2020年1月時点）、市内には小学校が12校、中学校が4校あり、約8,000人の児童生徒が学んでいます。袋井市がタブレット導入の検討を開始したのは2018年。小中学校のパソコン教室にあるデスクトップが更新時期を迎えたことがきっかけでした。



[取材協力] 袋井市教育委員会

ICTを活用し、子どもたちが気持ちを伝え合う授業へ

手書きの詩をオンラインで共有、交流を活発化

本格導入から約3ヶ月が過ぎ、市内でもICT活用が進む袋井市立山名小学校を訪れました。同校には145台のLTEタブレットが配備され、1年生から6年生まで、調べ学習やプレゼンテーション、プログラミングなど、さまざまな学習に使われています。

2年生を受け持つ牧野真典教諭は、国語の授業で「友だちの詩のよいところをつたえよう」をテーマに、一人1台でタブレットを活用しました。子どもたちはプリントに手書きした詩をタブレットのカメラで撮影して、授業支援システムで共有。その後、クラス全員の作品をタブレット上で鑑賞しながら、「題名がいいよ」「冬を感じるよ」「チャリン、チャリンの音がいいね」など、友達の作品のよいところをコメントで送り合います。コメントを受け取った子どもたちは笑顔で喜び、さらにほかの友達にもコメントを送るなど、活発な交流が行われました。



面と向かって伝えにくい気持ちも、恥ずかしがらずに伝え合える

牧野教諭は「子どもたちは詩を書くのがはじめて。さまざまな友達の作品を見ながら、ものの見方が人によって異なることを知ってほしい」と、今回の授業のねらいについて語ってくれました。今までは、付箋にコメントを書いて交流していましたが、意外にも、子ども同士が恥ずかしがってしまうこともあったよう。「面と向かって伝えにくい気持ちも、タブレットを使えばハードルが下がるのか、子ども同士がどんどん交流し、互いに気持ちを伝え合うようになりました」と同教諭。一見、デジタルのやりとりは冷たいと思われがちですが、子どもたちに話を聞くと「友達にコメントが送れてよかった」「どれもいい詩だと思った」と好評です。

ICTを推進するリーダーを育て、全体のボトムアップをめざす

ICTを活用し、教師の負担が減ることを実感

袋井市では、各小中学校に対してどのようにICT活用を広げているのでしょうか。教育長の鈴木氏は「各学校でリーダーとなる教員を育てながら、教員研修を積極的に実施していきたい」と述べています。実際に開催された教員研修には、多くの教員が集まり、アプリの操作方法や活用について学びました。

前出の牧野教諭は、山名小学校のICTリーダーとして「研修だより」を作成するなど、校内のICT活用の普及に努めています。同教諭は「タブレットを使い始めて、教材や板書の提示、印刷など、教師の負担が減ることを実感しました。現場でICT活用が広がるためには、むずかしい使い方ではなく、教師がメリットを感じる部分から使用するのがよいと考えています」と語ってくれました。



タブレットのメリットを活かして、多様な学びをつくる

今後の活用について牧野教諭は、「LTEのメリットを活かして、社会科見学に持っていきたいです」と話しています。写真を撮ったり、インタビューを動画で撮影したりしながら、より質の高い発表につなげていきたいといいます。また教育長の鈴木氏は、すでに現場からは『修学旅行に持っていききたい』という声もあがっており、一人1台の環境になれば、学校外での活用場面も増えると言及。袋井市では、市の実証事業として、今井小学校で週1回の持ち帰り学習を実施しており、アダプティブな教材を使った宿題にも挑戦。多様な学びをつくる環境としてLTEが活かされています。

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）
受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2020年1月取材時点のものです。